

## 東北アジアの平和のための日韓市民社会の課題

### “差異を小さく、類似を大きく”

8月19日～22日@国際交流基金ソウル文化センター

2005年！ 21世紀の敷居を越したばかりの両国は、21世紀をどんな方向へ向かってゆくのかまだ選択の岐路に立っています。西勢東漸によって“閉じた民族主義”を選択した100年前の道を踏襲するのか、それとも“開かれた市民社会”を通じて東北アジアの平和の時代を開くのか、その選択は日韓両国の“市民”の力にかかっています。第3回日韓市民社会フォーラムは、まさにこうした歴史的な岐路に立つ日韓市民社会の“選択”を現実化するための私たちの知恵と努力を合わせる場です。

“テロとの戦争”、“グローバリゼーション”は、21世紀の新しい“西勢東漸”です。この新しい世界の流れに対して、韓国の市民社会は“平和”を全面に押し立てています。民主化以後の民主化は“平和”という課題に集約されています。韓国の人々にとって、“平和”は、スローガンではなく、“生存”の問題です。韓国は新しい時代の幕を開く毎に、不本意ながら戦争によって荒された痛恨の記憶を共有しているからです。21世紀の戦争である“テロとの戦争”は、日本の平和憲法第9条を改正しようとする動きともつながり、北朝鮮の核問題を前面に浮上させています。このような現実に対する反射的な対応として、「市民」よりも“国民”を」という声が高まっているのが現実です。国家の選択と国民の選択は同じことが当然なことです。市民の選択は違う世界をつくることができます。市民の“力”で歴史のながれを変えた“歴史づくり”の現場を私たちは抱えています。

2005年8月に第3回日韓市民社会フォーラムがソウルで開かれます。1995年に市民団体協議会が主催したアジア太平洋市民社会フォーラム（APCSF）に参加した日韓両国の市民団体が中心となって、“テロ事態以後の東北アジアの平和と日韓市民社会の役割”をテーマに、2002年にソウルで第1回日韓市民社会フォーラムを開催しました。また、2003年11月には、東京で“東北アジアの平和構築のための日韓市民社会の役割”というテーマで、第2回日韓市民社会フォーラムを開催しました。

今回の2005年の第3回日韓市民社会フォーラムでも、過去2回のフォーラムと同じく“東北アジアの平和のための日韓市民社会の課題”に対して論議ことになりませんが、日韓の市民社会の結束がより重要だという現実を考慮して、“差異を小さく、類似を大きくしよう”というサブテーマを付けました。このメインテーマとサブテーマの旗の下、“市民教育”、“地域での市民政府づくり”、“個人の自立と平等”、“グローバリゼーションと市民社会”などを論議してゆきます。この間、両国の市民団体において、さまざまな運動を展開してきた参加者たちが、北東アジアの“平和”という大きな枠組が持つ意味を振り返りつつ、これからの課題に膝を突き合わせて議論するためのフォーラムです。

特別に日韓市民社会フォーラムでは、初めて中国の市民社会に関する専門家が参加して北東アジアの平和と日中韓の市民社会の役割に対する講演をしていただく予定です。日韓市民社会フォーラムが東北アジアの平和問題において、広い視野を持って責任ある主体になるための第一歩という点で、中国からの参加は意味深いものとなるでしょう。

日韓の市民社会で熱心に活動する皆さんの貴重な参加が東北アジア平和共同体をつくる糧となるでしょう。2005年8月19日にソウルでお会いしましょう。

アジア市民社会運動研究院 院長 姜汝奎  
第3回日韓市民社会フォーラム組織委員長 李貞玉